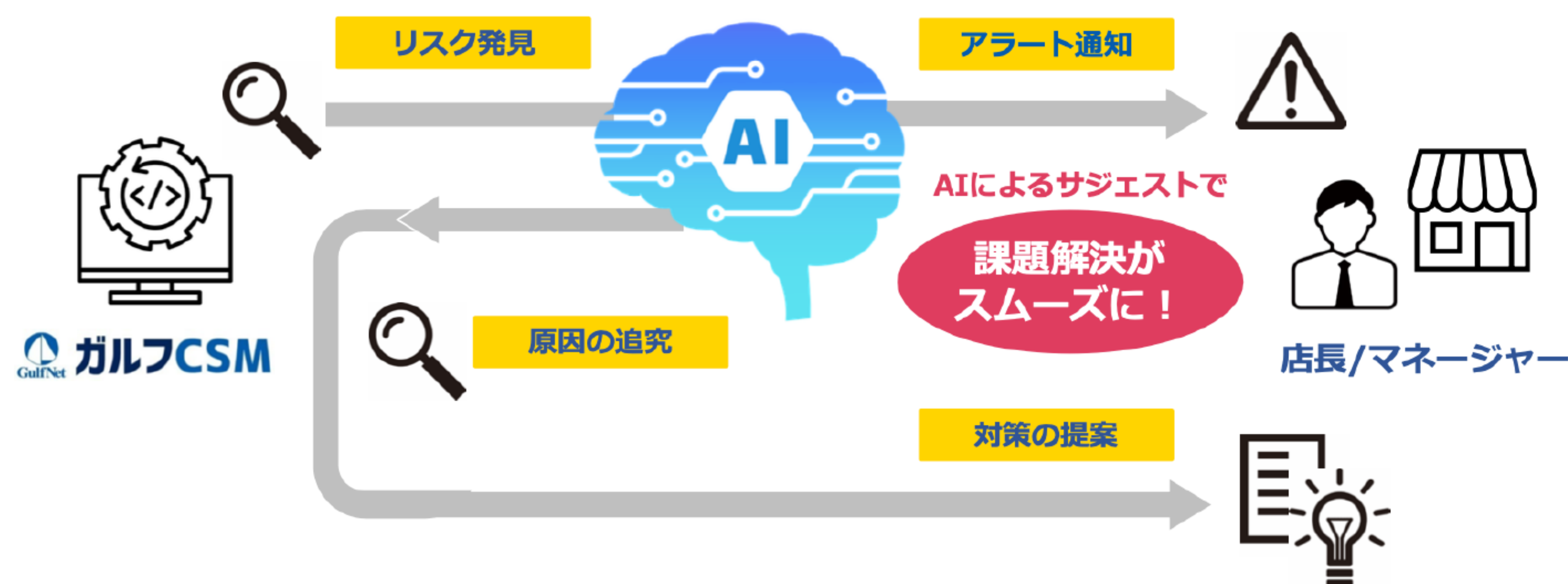


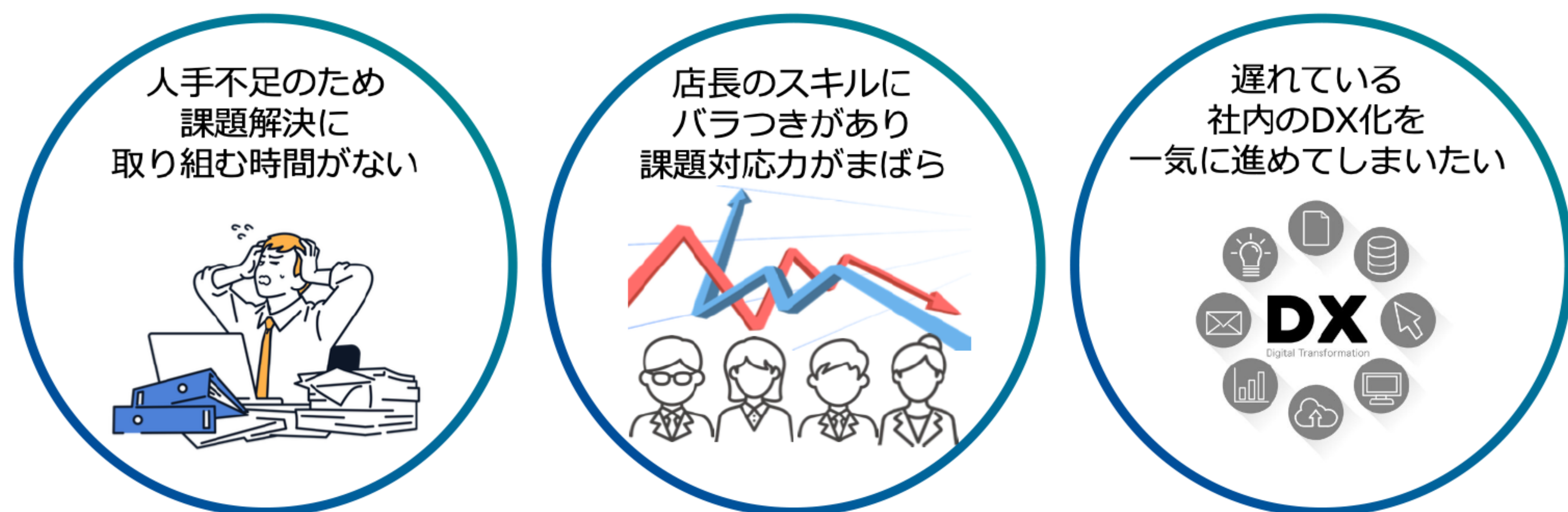
AIダッシュボードの特徴

AIダッシュボードの最大の特徴は「AIによるサジェスト」機能



AIダッシュボードの最大の特徴が、AIがアラート通知だけでなく対策の提案まで行う「サジェスト機能」。リスク発見、原因の追求、アラート通知、対策の提案といった一連の流れを全てAIが自動で実行。飲食業界の店舗運営について知りつくしたガルフネットだからこそ、適切な提案をするようにAIをチューニングできる。

こんな課題を持つチェーンストア企業に最適なツール



飲食業界の人材不足は特に店舗管理者のようなマネジメント層において深刻だ。採用できる数も少なく、採用後もリソース不足により十分な研修・教育ができないケースは多い。AIダッシュボードの導入によって、店舗運営業務の中でハードルが高いリスクの発見から課題解決までを自動化でき、DXの促進にもつながる。

AIダッシュボード画面例



ビジュアルでわかりやすく表示するため、状況の把握もしやすい。モデル店との比較から店舗の異常や課題を抽出し、正常値に近づけるにはどうすべきかAIがサジェストする。経験の浅い店舗管理者にとっては、AIダッシュボードを日々活用することで、店舗運営において着目すべき点を自然に学ぶことにつながる。

外食現場のDX化で、リアルタイムマネジメントを支援！

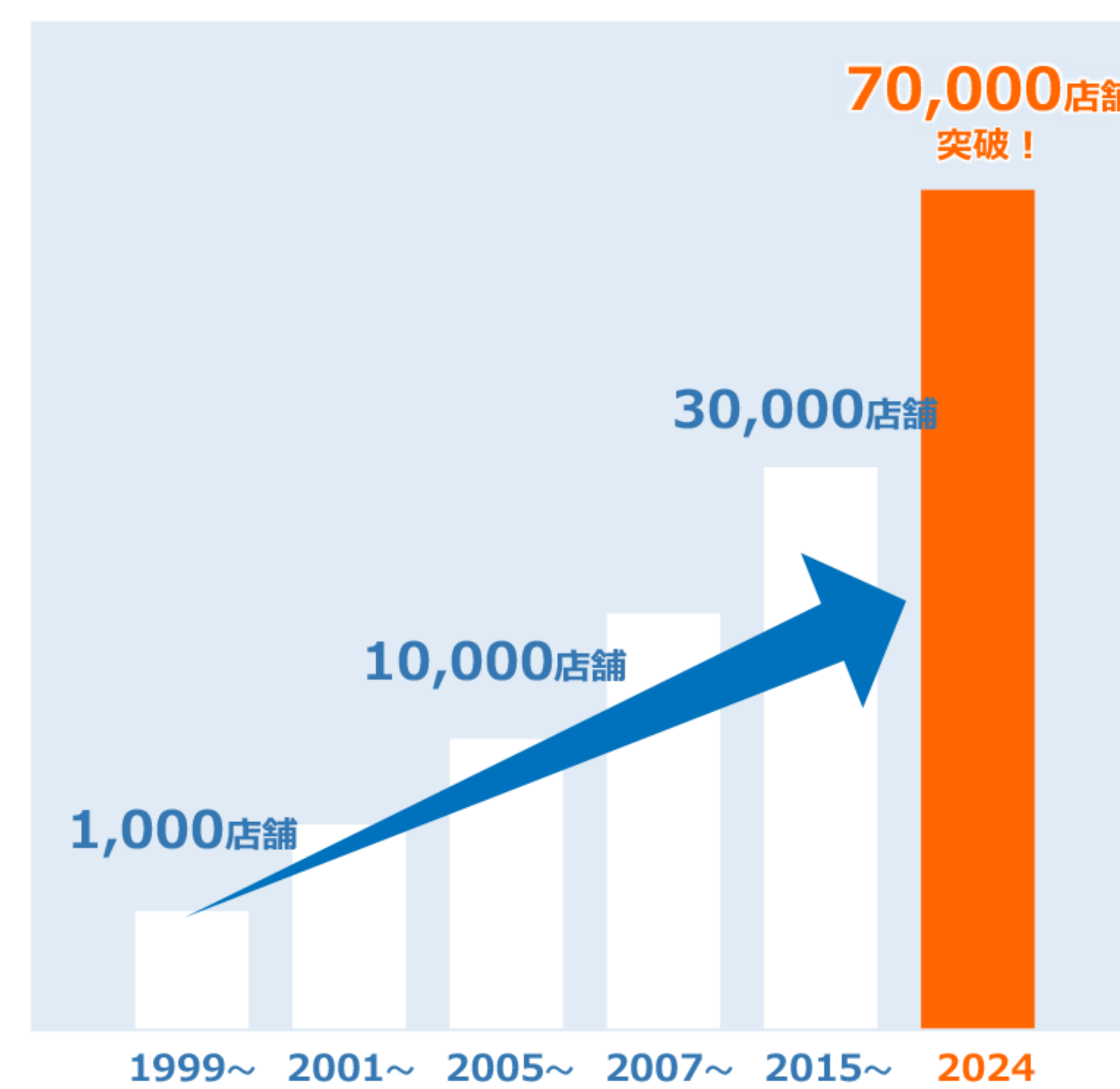
外食経験者の不足を補う最新ツール ガルフネットの「AIダッシュボード」

株式会社ガルフネットは同社が提供する店舗統合管理システム「ガルフCSM」のオプション機能として「AIダッシュボード」を2024年11月にリリースした。本製品にはどんな開発背景や強みがあるのだろうか。

しかし、近年とある要望が非常に増えているという。それは、数字を見せるだけでなく、異常があった場合にアラートを出し、状況の分析や改善策の提案までしてほしいというもの。背景としては、経験値のある従業員不足が大きい。従来であれば、食材の発注量や人員の配置まで、店舗管理者が長年の経験から判断していたが、人材不足から現場経験が非常に浅い社員を責任者に配置せざるを得ない状況が広がっているという。経験が浅い店舗管理者でも、適

切な店舗運営ができるようなソリューションはないものか。その要望に応える形で生まれたのが、ガルフCSMのオプション機能として登場した「AIダッシュボード」だ。AIダッシュボードではガルフCSMに落とし込まれた数値をAIが解析し、管理者に向けてさまざまなアラートを出し提案も行う。例えば、特定のスタッフの残業が多いというアラートを出し、業務の分散を提案すると

ガルフCSM契約店舗数の推移



飲食、流通小売、サービス企業1200社70000店舗が導入。昨今の人手不足や人材不足の対策としてDX化を進める企業が急増している。

マルチ言語対応なので海外進出時にも現地店舗のオペレーションにおける強い味方になることは違いない。AIダッシュボードは、店舗管理者の経験や国籍に関係なく、誰でも店舗運営の最適解を知ることができ、施策のスピーディーな実行を助けるツールだ。ガルフネットは今後もAIの活用を進め、飲食店に新たな価値を提供し続ける。

「30店舗規模のチェーンの場合、導入してから3ヶ月程度チューニングを行ってから運用に入るイメージです。AIは実際に運用を行いながらどんどん良くなっていくツール。当社もしっかり伴走しながら、各店舗に完全に寄り添ったAIダッシュボードになるようにサポートしていきたいです」(営業部長 稗村潔氏)

「これまでの問題を発見したとしても、解決策を考え実行するまでに、非常に時間がかかっていました。AIダッシュボードは蓄積したデータ全体から異常値を検出し、客観性の高い提案をするので、情報の信頼度が非常に高い。解決策実行までのスピードが飛躍的に向上します」(開発責任者 佐々木紀人氏)



営業部長 稗村潔氏

ガルフCSM特徴

- ・ヒト・モノ・カネのリソースすべてを一括管理できる
- ・勤怠、売上など、様々な数値を組み合わせたデータ取得が可能に
- ・他システムともシームレスな連携ができる
- ・マルチ言語対応で海外での使用も可能
- ・手厚いサポート体制が整っているのが安心



開発責任者 佐々木紀人氏